

●横代神楽（10月8日）【国指定重要無形民俗文化財（豊前神楽の一つとして）】



元和3年（1617年）創始と伝えられる高倉八幡神社の神楽。

明治16年頃、上横代地区の人たちが京都郡系の神楽を習得し、高倉神社の氏子でつくる横代神楽講社として子孫が継承している。「米まき」などの舞神楽、「岩戸開き」などの面神楽、座興的な「鯛釣り」、湯立て神楽の「湯立て」の17種目が伝えられています。

●葛原新町楽（令和4年より休止中）【市指定無形民俗文化財】



葛原八幡神社の秋祭りに行われる疫病退散の太鼓祭りです。

江戸時代から伝わっていましたが、昭和30年から一時途絶え、昭和51年に復活しました。太鼓打ちは半楽の12人、言上1人、うちわ持ち2人、笛・鉦数人の総勢20人余りの太鼓踊りです。

●しびきせ祭（12月15日）



源平合戦で敗れた平家の一門が安徳天皇は入水したと偽り、安住の地を求め、隠蓑の里にさしかかった時、源氏の追手が迫っているのを知った里人がワラの中に安徳天皇を匿い、追っての目をくらますことができたという伝説にちなんでいる小倉南区隠蓑の里に古くから伝わる祭りです。

※令和元年以降は一般公開されていません

●道原楽【県指定無形民俗文化財】



紫川の上流、菅生の滝に近い道原地区に古くから伝わる太鼓踊り。雨ごい祈願のため、天明7年(1787年)以来、今日まで20数回しか踊られていません。

楽打は田植え踊りの田楽に風流や念仏踊りが加わったものと言われています。道原楽は一子相伝、村外不出で村のしきたりがあればこそ続いてきた伝統の儀式です。

●石田楽【県指定無形民俗文化財】



白と黒を基調にした服装の25人による太鼓踊りです。

太鼓打ちが背に負う小幡には「仰神威祈雨」、ウチワの表に「雨」裏に「楽」と大書きしており、雨ごいの楽であることがわかります。